

## 注 記

写真右下に「昭和 39 年（1964 年）ブラジル地理学協会会員高橋麟太郎氏へ感謝状贈呈」と記されている。

地学雑誌に次の記事がある。

理事会（昭 39.4.16）

議題（1）在ブラジル高橋麟太郎氏からの会長宛来状について

Sociedade Geographica Brasileira が本会に友好親善のメッセージ、細川会長にロンドン將軍文化章を同氏に託する議ある由につき、先方に決定を委ねる旨回答することとした。

地学雑誌 73 130

Marechal Candido Mariano da Silva Rondon 章の受贈

Sociedade Geographica Brasileira から本会に対し 5 月 15 日付をもって表題の章および略章が贈られ、同会会員高橋麟太郎氏（同会特使）から 6 月 27 日細川会長にこれを渡された。

地学雑誌 73 263

理事会（昭 39.8.8）

議題 1. Sociedade Geographica Brasileira に対する謝状その他について  
事務局にて取り計らうこととした。

地学雑誌 73 263

高橋麟太郎氏については、以下に詳しい。

—略—

高橋麟太郎さんは 1897 年（明治 30 年）に宮城県玉造郡に生まれ、東北学院中学部卒業。1913 年、16 歳で家族と共に「若狭丸」で渡伯した。17 年にアラサツバ近郊のアグア・リンパ地区に土地を買って入植し、農業をするかたわら日曜夜などに日本語学校教師をしていた。

22 年には、南マツト・グロツ州カンポ・グランデ市で日本語教師、35 年からアラサツバで書店を開き、その後、印刷所も経営した。

故人と親交の深かった五十嵐前会長によれば、麟太郎さんがカンポ・グランデにいた時に、インディオに興味を持つようになり、趣味が高じて研究まではじめるようになった。次第に奥地に分け入って、未開の部族から珍しい説話を取材したり、土器や工芸品をもらったりするようになった。

もともと学究肌だった麟太郎さんは、インディオ研究により考古学への造詣を深めた。ブラジル地理学協会会員になり、62 年にはブリガデイロ・コート・マガリャンエス文化勲章を受け、翌 63 年には『ブラジルのインディオ（その生活と民族史）』（1963 年、東京・帝国書院）を出版した。

—略—

68年に日本政府より勲五等瑞宝章を受勲。同年、「会館建設のため、日本からの援助を受け取りにサンパウロの総領事館へ行った時、御茶の水橋にへんでオニブスにぶつかって亡くなったんです」（五十嵐談）

—略—

JORNAL ニッケイ新聞 2006年2月11日（土）

高橋麟太郎博物館＝アラサツーバの新名所＝インディオ装飾具など展示＝「歴史に残る人です」（<https://www.nikkeishimbun.jp/2006/060211-71colonia.html>）より

注1）アラサツーバ：サンパウロ北西約500キロメートルにある都市

注2）カンポグランデ：アラサツーバ西約500キロメートルにある都市

注3）オニブス：市内バス